



はやし 幹

林もとひと県議会レポート

発行／自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

障害者用駐車場の 駐車許可証を発行

パーキングパーミット

9月定例県議会一般質問

9月定例県議会で登壇し、県政の課題について質問する林幹人県議



障害者に優しい社会の実現を目指している林幹人県議（成田市選出、4期）は9月定例県議会で登壇し、一般質問に臨みました。障害者が障害者等用駐車スペースに停められるよう考案されたパーキングパーミット制度を取り上げた林県議の質問に対し、県担当者は早期導入を念頭に検討するとの前向きな回答をしました。このほか、県庁の業務合理化、職員のテレワーク、成田空港の魅力創出について森田知事ら県執行部に質しました。林県議の質疑と県執行部の答弁を紹介します。

制度の早期導入へ

9月定例県議会で登壇し、県政の課題について質問する林幹人県議

林議員 公共施設やショッピングセンターなどの出入り口付近に車いすが描かれた専用駐車スペースがある。障害者等用駐車場と呼ばれる。車いすを利用している方、障害をお持ちの方、高齢の方、妊婦さんなどがそれぞれの施設の出入り口付近に優先的に停められるようにとの配慮から生まれた専用駐車スペースだが、この専用スペースに健常者が堂々と停めてしまつて、本当に必要な方が停められずに困っているという事態が頻発しているということ。これを昨年の9月県議会で指摘させていただいた。

その対応策として生まれたのがこのパーキングパーミット制度。自治体希望者からの申請を受け付け、その障害の程度を把握して駐車許可証を発行する。発行された許可証を利用者は車内のバックミラーにかけて専用スペースに停めるといいう制度で、平成18年に佐賀県でスタートし全国に拡大し

た。今は39府県が導入済みとなり、導入していない千葉県は少数派になった。東京オリンピックパラリンピックが1年延期になった。今やればまだ間に合う。そこでうかがうが、パーキングパーミットの導入に係る検討状況はどうか。

健康福祉部長 障害者等のために設置された駐車スペースの適正な利用を促進するためには、利用者の譲り合いの心が重要であることから、本県ではこれまで、近隣都県と連携の上、駐車マナー向上のための啓発活動に力を入れてまいりました。

一方、近年、障害者等用駐車区画の利用対象者に利用証を交付するパーキングパーミットの導入が全国的に進んでいることから、本県でも制度の導入について課題を整理するため、他県への視察調査やアンケート調査、関係者からの意見聴取を行ってまいりました。

その結果、本制度の導入により、外見では分かりにくい障害者等が駐車場を利用しやすくなること、障害者等用駐車区画についての理解が進み、利用者のマナー向上に資すること、不適正利用の抑止に一定の効果が期待できることなどの利点が見えられたところで

林議員 パーキングパーミットを含め、適正利用に向けた今後の取り組みを、どのように行っていくのか。

健康福祉部長 パーキングパーミットには、障害者等用駐車区画の適正利用を促進する上での利点が見えられたことから、今後は、制度の早期導入を見据え、検討を進めてまいります。

また、これまで行ってきた啓発活動とあわせて、本制度の周知を図ることにより、利用者のマナー向上を促進するとともに、駐車場設置者に対しては、障害者等用駐車区画の拡充を働きかけていくなど、適正利用の取り組みをさらに充実させてまいります。

林もとひと県議・プロフィール

○略歴○

昭和48年	9月	銚子市に生まれる
平成4年	3月	銚子市立銚子高校卒業
平成8年	3月	玉川大学文学部卒業
	5月	米国ロードアイランド州語学留学
平成10年	4月	空港グランドサービス入社
平成12年	4月	衆院議員・山崎拓秘書
平成15年	4月	衆院議員・林幹雄秘書
平成19年	4月	千葉県議会議員初当選
平成23年	4月	千葉県議会議員再選
平成27年	4月	千葉県議会議員3選
平成31年	4月	千葉県議会議員4選

○現職○

- 県議会 文教常任委員会委員
- 自民党 ちば青年局長

●県政や成田市のご相談・ご要望はお気軽にどうぞ

林もとひと 県議事務所

〒286-0134

成田市東和田569 なるげや陶器ビル3階D号

TEL.0476-20-0884

FAX.020-4622-9781

Eメール:motohito884@gmail.com



twitter
@motohito884

Facebook 林 幹人

ホームページ

林もとひと

検索

県庁の業務合理化へ 「カイゼン手法」提言 現場レベルで改善推進



県の取り組みに対して要望する林県議

林議員 県庁の業務の合理化についてうかがう。先日、大手電力会社の方と面談する機会があった。その時うかがった話が非常に興味深かった。

その方は以前、本社で業務改革にあたったが、業務改革を断行した結果、社風がガラリと変わり、業務が効率化されて無駄がそぎ落とされ、社員一人ひとりの目の輝きが違ってきたということだ。

ヨタ自動車のカイゼン手法。製造業の無駄を徹底的に省いていくということを生み出したもので、製造業中心に瞬く間に世界に広がっていた。

上からのトップダウンで押し付けるものではなく、現場レベルで問題を抽出し改善策を提案する。そして、それを実行し改善した後、結果をフィードバックして更なる提案を生んでいく。現場レベルで改善を進めていくというものだ。

仕事をしやすい環境を自らつくる。これを千葉県に導入したら素晴らしいことが起きるのではないか。

そこでうかがうが、県においても、業務の効率化・合理化を全庁をあげて取り組むべきだと考えるが、どのように認識しているのか。

総務部長 限られた人的

緊急事態宣言発令中に

林議員 緊急事態宣言が発令されてからは、社会をあげてテレワークが強力に推進されたが、県としてテレワークについて今までのような取り組みをしてきたか。

総務部長 本県では、平成30年度以降、育児や看護など様々な事情を抱える職員の多様な働き方の実現と、業務効率の向上を図る観点から、テレワークの試行を開始し、年間で数十人程度の職員が実施してきたところだ。

一方、本年4月、5月の緊急

事態宣言発令中は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止と業務継続の観点から、強力にテレワークを推進し、全庁で約6800人、延べ約5万8000回の在宅勤務が実施された。

林議員 県庁職員の在宅勤務について、これまでの評価や課題を踏まえて、今後、どのように実施していくのか。

総務部長 緊急事態宣言下で、強力にテレワークを推進した結果、宣言解除後も、全庁で月千回程度の在宅勤務が実施されており、制度の定着が図ら

れている。今後、ペーパーレス化の推進やウェブ会議の活用など、業務のデジタル化にも積極的に取り組む。大規模かつ組織的なテレワークに対応可能な業務実施体制の確保に努めてまいります。

林議員 現在の感染症の状況下において、豊富なネットワークを有する成田空港の魅力を維持していくことが極めて重要と考えるがどうか。

知事 成田空港は、我が国最大の国際線基幹空港であるとともに、国内線においても23都市と結ばれるなど、豊富なネットワークを有していること等が魅力となつています。

資源で多様化する県民ニーズに 대응するとともに、職員の長時間労働の抑制などの課題に対応していくためには、生産性の高い働き方を実現することが必要です。

このため、県庁全体で、業務執行時の手順の最適化や、ICTツールの導入などにより、業務の効率化・合

理化を図っていくこととしています。

岩手県でも「岩手マネー ジメントシステム」と名付けた改革に取り組み、年間1万2千時間の無駄の削減に成功したということだ。

これは千葉県でもやるしかないと思う。そこでうかがうが、県においては、業務の効率化・合理化のため、横の連携を図ることだ。

林議員 効果を確認しながらというところだが、チマチマと改革をやるのではなく、一気に全庁を挙げて取り組んでいきたい。これは今、鳥取がやっている取り組みが非常に良い参考になると思う。

現場で問題点を抽出し、汲み上げて、その場で処理していく手法であり、スピ

全庁挙げての取り組みを

要望 林議員 効果を確認しながらというところだが、チマチマと改革をやるのではなく、一気に全庁を挙げて取り組んでいきたい。これは今、鳥取がやっている取り組みが非常に良い参考になると思う。

現場で問題点を抽出し、汲み上げて、その場で処理していく手法であり、スピ

ード感を持つて解決できる。それが、ひいては自分たちの職場環境の改善、自分たちの負担軽減になり、かつ安全確保しながら県民サービスの維持ができる。

まずはやらないことには進まない。「カイゼン」は素晴らしいと評価されている。行政でもすでに取り組んでいる事例がある。千葉県

は慎重な県だと思う。他県の取り組みを見てから、他県の動向を注視しながらという答弁をよく聞くが、勇気ある決断をしていただき、「事例は少ないが千葉県が先陣を切っている。その結果を全国に向けて発表する」といった取り組みをぜひやっていただき、更なるサービスの向上につなげていただきたい。

林議員 平成22年度からトヨタの改善方式に鳥取県が全庁をあげて取り組んでいる。毎年、担当課が成果を持ち寄って発表する。それを全庁でノウハウを共有

し、横の連携を図ることだ。

総務部長 県では、平成30年度から、トヨタのカイゼン手法に精通した業務改善アドバイザーを置き、生産性の高い職場づくりのための研修や個別支援を実施するほか、ノウハウを共有

するための庁内向けニューズレターを発行しています。

また、今年度は、外部コンサルタントも活用し、業務手順の問題点を洗い出し、その最適化を図ってまいります。

ネットワークの魅力、維持必要
コロナ下の成田空港

林議員 現在の感染症の状況下において、豊富なネットワークを有する成田空港の魅力を維持していくことが極めて重要と考えるがどうか。

知事 成田空港は、我が国最大の国際線基幹空港であるとともに、国内線においても23都市と結ばれるなど、豊富なネットワークを有していること等が魅力となつています。

こうした魅力の維持のためには、空港を安心して利用できる環境が必要であることから、国や空港会社では、入国者に対する迅速な検査体制の確立や、接触機会を減らすセルフサービス型搭乗手続きの拡充等を行っている聞いています。

このような動きがある中、県では、まずは回復傾向にある国内線について、就航先等と旅行機運の醸成に取り組んでおり、今後は国際線も含め、成田空港の感染症に対する取り組みや豊富なネットワークなどの魅力を関係者と連携し、国内外に継続的に発信してまいります。

県職員6800人がテレワーク

林議員 緊急事態宣言が発令されてからは、社会をあげてテレワークが強力に推進されたが、県としてテレワークについて今までのような取り組みをしてきたか。

総務部長 本県では、平成30年度以降、育児や看護など様々な事情を抱える職員の多様な働き方の実現と、業務効率の向上を図る観点から、テレワークの試行を開始し、年間で数十人程度の職員が実施してきたところだ。

一方、本年4月、5月の緊急

事態宣言発令中は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止と業務継続の観点から、強力にテレワークを推進し、全庁で約6800人、延べ約5万8000回の在宅勤務が実施された。

林議員 県庁職員の在宅勤務について、これまでの評価や課題を踏まえて、今後、どのように実施していくのか。

総務部長 緊急事態宣言下で、強力にテレワークを推進した結果、宣言解除後も、全庁で月千回程度の在宅勤務が実施されており、制度の定着が図ら

れている。今後、ペーパーレス化の推進やウェブ会議の活用など、業務のデジタル化にも積極的に取り組む。大規模かつ組織的なテレワークに対応可能な業務実施体制の確保に努めてまいります。

林議員 現在の感染症の状況下において、豊富なネットワークを有する成田空港の魅力を維持していくことが極めて重要と考えるがどうか。

知事 成田空港は、我が国最大の国際線基幹空港であるとともに、国内線においても23都市と結ばれるなど、豊富なネットワークを有していること等が魅力となつています。

こうした魅力の維持のためには、空港を安心して利用できる環境が必要であることから、国や空港会社では、入国者に対する迅速な検査体制の確立や、接触機会を減らすセルフサービス型搭乗手続きの拡充等を行っている聞いています。

このような動きがある中、県では、まずは回復傾向にある国内線について、就航先等と旅行機運の醸成に取り組んでおり、今後は国際線も含め、成田空港の感染症に対する取り組みや豊富なネットワークなどの魅力を関係者と連携し、国内外に継続的に発信してまいります。